資料３

# 令和４年度事業計画・実績

## １　収　集

＜令和４年度の取得状況＞
寄贈の申出があり、作品取得を検討中である。

## ２　展　示

### (1)　令和４年度展覧会開催計画・実績

（令和４年８月 31 日現在）

| 展覧会名 | | 会　　期 | 観覧者見込（人） | 観覧者実績（人） |
|---|---|---|---|---|
| 企画展 | 大展示室展 | 4/6～5/15（45 日間） | － | 7,116 |
| | 兵馬俑と古代中国 | 6/18～8/28（63 日間） | 72,000 | 63,254 |
| | 絶景を描く | 9/10～10/23（38 日間） | 7,000 | － |
| | みる誕生　鴻池朋子展 | 11/3～1/9（54 日間） | 8,000 | － |
| | 近代の誘惑 | 2/18～3/26（33 日間） | 7,000 | － |
| ※収蔵品展 | | | 12,000 | 3,005 |
| 計 | | | 106,000 | － |
| 移動展 | 富士市文化会館ロゼシアター | 11/19～11/27<br>(9 日間) | 12,000 | － |

**※収蔵品展**

収蔵品を幅広くご覧いただくため、日本画や西洋絵画、現代美術等ジャンルごとテーマを設定して展示を構成する令和４年度収蔵品展は次のとおり。

| 展覧会名 | 会期 |
|---|---|
| 新収蔵品展 | 5/24～7/18 |
| 絶景考Ⅰ・Ⅱ | Ⅰ:7/20～9/19<br>Ⅱ:9/21～11/20 |
| 輞川図と蘭亭曲水図 | 11/22～1/9 |
| 光－The Light | 2/14～4/9 |

## ３　教育普及事業

### (1)　実技系イベント・学校連携

ア 目　的

県民の創作意欲に応える実技系事業及び学校と連携した教育普及プログラムを実施するとともに、展覧会に関連した各種普及事業を開催する。

| 事業計画 | | | 事業見込み |
|---|---|---|---|
| 教育普及プログラム参加者総数（体験＋講義＋学校連携） | | | 9,030 人<br>・プログラム数 61 本 |
| 教育普及 | 体験 | 県民の創作意欲に応える実技系事業の開催（創作週間、えのぐ開放日、ねんど開放日、わくわくアトリエ等） | 2,928 人<br>・プログラム数 16 本 |
| | 講義 | 特別講演会、美術講座、フロアレクチャー等の開催 | 1,800 人<br>・プログラム数 32 本 |
| | 学校連携 | 美術館教室等の開催（出張美術講座、学校向けギャラリーツアー、職場体験等） | 4,302 人<br>・プログラム数 13 本 |

### (2)　ロダンウィーク

平成 26 年度にロダン館開館 20 周年を契機として立ち上げたロダンウィークを令和４年 11 月３日(木・祝）～11 月６日（日）に２年ぶりに開催する。「ロダン賞コンサート」や草薙マルシェ実行委員会との協働による「丘の上のロダンマルシェ」などを実施し、ロダン館への誘客を図る。

### (3)　地域連携

これまでの地域等の連携をさらに深め、地域をパートナーと考える経営を推進する。

ア 県立美術館ボランティア

本年度、任期延長を希望した 102 名により活動を継続している。しかしながら、ギャラリーツアーグループやタッチツアーグループ、学校グループについては、再開の見込みが立たず、コロナ禍以降、活動ができないでいる。地域連携・草薙ツアーグループは一部の活動に制限されている。

また、希望者には図書閲覧室グループの活動に、他グループから参加していただいている。本年度は、次期のボランティアを募集する予定である。

・活動期間（任期）：平成 31 年４月１日～令和５年３月 31 日（４年間）
・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

イ 県立美術館友の会

友の会は、県立美術館の活動を後援することによって、芸術文化の向上を図ることを目的とする親睦団体である。新型コロナウイルスの感染状況を注視ししながら、友の会会員向けの学芸員によるレクチャー、館長講座、研修旅行などの行事を可能な範囲で実施する。

ウ ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育７機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、ＳＰＡＣ、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）が多分野における連携を進め、更なる文化の情報発信を目指す。

・ ムセイオン静岡協働イベント「文化の丘フェスタ」の実施（令和４年 10 月 18 日(火)から 11 月６日(日)まで実施予定）

エ 草薙商店会等との協働（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダン・ウィークに「丘の上のロダンマルシェ」を開催（11 月３日（木・祝）予定）

**(4) 企業との連携**

ア 経済団体との連携

(ｱ) 静岡県経営者協会

・協会会員交流会において、「ビジネスとアート」をテーマに学芸員が講演予定

**(5) 教育機関との連携**

ア 職員による教育支援等の講義

・博物館実習（８月８日～12 日、６大学８名受け入れ）
・静岡大学　出講（地域の人と文字文化、令和４年５月 23 日、30 日）
・静岡文化芸術大学　出講（美術史（西洋）Ⅱ　特別講義　令和４年６月 30 日）
・静岡県立大学　出講（歴史から読み解くしずおか学Ｂ）

イ 企画展における大学への働きかけ

(ｱ) 「絶景を描く」「みる誕生　鴻池朋子展」「近代の誘惑」

・大学生の入場料が無料となる自主企画展において、美術館周辺大学の学生に向けたメールでの広報を実施予定

ウ 各学校の美術館利用促進

前年度末に、県内小・中・高・特別支援学校へ年間スケジュール・美術館教室のしおり・鑑賞のポイントなどを記載した企画展利用案内を配布した。

また、８月から 11 月に小中高・特別支援学校・私立学校の教員研修会の場に出向き、教育プログラムについて、説明予定

## 4 調査研究活動

**(1) 学芸課研究会の実施**

毎月１回のペースで学芸課職員による研究会を実施している。発表時間約 40 分の後、質疑応答約 20 分。研究会のテーマは自由に設定し、発表後は館長及び課員との質疑応答を行うことで、研究成果を共有し、有益な示唆を得る機会となっている。

**(2) 美術館研究紀要の発行**

２本の論文を収録予定。

## 5 広　報

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進する。企画展の共催者・協賛者等と協働した広域的な広報を目指す。

### (1)　広報活動

ア　ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターによる情報発信と、訪問者の情報解析等

イ　展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）

ウ　ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り

エ　県広聴広報課との連携（県民だより・県公式アカウントによるＬＩＮＥ・Twitter・Facebook・Instagram）

オ　広報サポーターへの情報提供

カ　展覧会共催者（新聞社・テレビ局）、等との連携

キ　企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図る

ク　美術館ニュース「アマリリス」の発行

ケ　インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトでの情報発信

コ　共同通信 PR ワイヤーを利用した国内メディア向けオンラインプレスリリースの配信

サ　静岡県立美術館デジタルアーカイブの充実

・作品作家情報の精度向上

・デジタルアーカイブのコンテンツを利用した教育プログラムの開発

### (2)　県有文化施設と協働した広報

・「ふじのくに文化の丘フェスタ 2022」にスタンプラリー等による参加を予定

## 6　環境・施設整備

監視カメラ、本館ファンコイルユニット、本館蓄電池設備及びレストラン給水配管の更新、並びにロダン館１階ホール照明を LED 照明に更新する。

## 7　新型コロナウイルス感染拡大防止対策

### (1)　展示

「県有施設における感染防止方針」に基づく感染防止対策を講じた上で展覧会を開催していく。

・関係機関から最新情報の収集に努め、感染予防、感染防止に最新の注意を払う。

・スタッフのマスク着用、受付への飛沫防止シールド設置、手指消毒液の設置、サーモグラフによる検温で体温を確認等、感染症拡大防止への対策を実施する。

・混雑した場合は入場制限を実施する。

・混雑が予想される「兵馬俑と古代中国展」及び「みる誕生鴻池朋子展」においては事前予約制を導入

・「絶景を描く展」からはキャッシュレス決済を導入予定

### (2)　教育普及

事業内容や新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、臨機応変に事業を実施している。なお、感染状況については毎週県から発表される評価レベルを参照している。

#### ア 体験

コロナ禍でも体験活動が継続できるよう、定員削減やプログラム内容の検討等を行い、実施した。昨年度から基本的な対応として、参加者の連絡先の把握や道

具の共有の回避などを行っている。プログラムによって感染リスクの順位を付け、それに応じて実施を検討、判断している。７月末現在、中止となったプログラムはない。

イ 講義

今年度、学芸員による「フロアレクチャー」を再開している。来館者数が特別多い「兵馬俑と古代中国」展を除き、ハンズフリー拡声器を使用し、実施可能とした。「特別講演会、シンポジウム」や「美術講座」も昨年度に続き、実施できている。

ウ 学校連携

今年度から、「美術館の秘密をさぐれ」は、順路を変更するなどの対応をすることで再開した。また、「ねんど教室」「えのぐ教室」については、定員を半減し、他団体との合同での参加は不可とすることで、感染リスクの低減を図っている。教材貸出については、貸出間隔を２週間空けることで、感染リスクの低減を図っている。教員研修については、今年度も主催者から依頼があり、対応を準備している。

### (3) 県立美術館ボランティア

昨年度に引き続き、図書閲覧室グループ、資料整理グループ、実技室グループは対策の上、活動を継続している。地域連携・草薙グループは茶園管理のみの一部分活動に制限している。リスクの比較的高い、学校グループ、ギャラリーツアーグループ、タッチツアーグループは今年度も休止したままである。そのため、活動休止中のグループは、代替の活動として、図書閲覧室グループの活動に参加できるようにしている。